（別添1）

資料1－2

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和3年　　月　　日

協議会名：　　蒲郡市地域公共交通会議

評価対象事業名：　　地域内フィーダー系統

①補助対象事業者等	②事業概要		③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】		【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄タクシー株式会社	形原地区支線バス「あじさいくるりんバス」	左回りルートA（ユトリーナ経由なし） 左回りルートB（ユトリーナ経由あり） 右回りルートA	・支線バスの各地区の協議会を継続して開催し、停留所別利用実績を共有し、各地区の状況に応じた利用促進（ぬりえ大会や乗り方教室の開催など）・事業改善の検討を地域主導で行っている。当該検討を法定協議会にて確認・連携し、事業運営を進めた。 ・東三河地域で連携した公共交通利用促進活動の継続実施。 ・新たな支線バスの運行や交通空白地へのルート延伸による交通空白地対策を進めた。また既設のコミュニティバスでカバーできていない地区等には、勉強会を開催し、地域のニーズと地区協議会の設置意向を確認し、カバーエリアの拡大を進めている。 ・公共交通マップ（R3/4版）を作成・配布し、利用PRを実施。乗り方教室等地道な周知活動を継続実施。	A	計画通り事業は適切に実施できている。	B	【達成状況】 目標：年間利用者4,800人 実績：4,026人 【理由等】 10−3月期のR1/R2比較では減少し、4−9月期では増加しつつも、1年間の対前年比では93%減少し、コロナ前の水準に戻っていない。 本路線は、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されており、名鉄蒲郡線の2駅に接続して広域の移動支援にもつながる地域住民の欠かせない移動手段になっている。	・新型コロナウイルス対策を実施し、安心して乗車してもらえる環境を整える。 ・継続した評価を行い、停留所ごとの乗降者数の評価による議論や乗車体験を促す利用促進策の実施、広告の拡大検討などを行う。 ・1日乗車券の導入により、乗り継ぎ促進、利用者増加を見込む。
豊鉄タクシー株式会社	東部地区支線バス「とがみくるりんバス」	駅・病院先発ルート 左回りルート 右回りルート		A	計画通り事業は適切に実施できている。	B	【達成状況】 目標：年間利用者2,400人 実績：1,557人 【理由等】 10−3月期のR1/R2比較では減少し、4−9月期ではほぼ同水準に回復しつつも、1年間の対前年比では78%とコロナの影響から脱していない。 本路線は、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されており、JR東海道本線に接続して広域の移動支援にもつながる地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
豊鉄タクシー株式会社	西部地区支線バス「みかんの丘くるりんバス」	左回りルート 右回りルート		A	計画通り事業は適切に実施できている。	A	【達成状況】 目標：年間利用者1,000人 実績：1,100人 【理由等】 R2/10～R3/9までの12カ月の1便当たりの利用者数の推移を見ると、前期6カ月と後期6カ月に分けて確認すると明らかに後期6カ月は増加している。R3/1から坂本地区への延伸による利用増につながった。 本路線は、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されており、JR東海道本線に接続して広域の移動支援にもつながる地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
豊鉄タクシー株式会社	三谷地区支線バス「おおしまくるりんバス」	公民館・三谷駅北口始発ルート（三谷公民館発） 西回りルート（三谷駅北口発） 東回りルート		A	計画通り事業は適切に実施できている。	B	令和3年1月より運行開始。対象期間：R3.1～R3.9（9か月間） 【達成状況】 目標：利用者3,000人 実績：1,444人 【理由等】 コロナ禍で期待水準の利用とはならなかったが、運行開始後徐々に1便当たりの利用者数は増加傾向にある。 本路線は、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されており、JR東海道線に接続して広域の移動支援にもつながる地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
豊鉄タクシー株式会社	大塚地区支線バス「ひめはるくるりんバス」	左回りルート 右回りルート		A	計画通り事業は適切に実施できている。	B	令和3年4月より運行開始。対象期間：R3.4～R3.9（6か月間） 【達成状況】 目標：利用者900人 実績：728人 【理由等】 開始後のお試し利用の水準から若干低調となり、コロナ禍で期待水準の利用とはならなかった。 本路線は、地域内の病院・買物・公共施設等へのお出かけに日常的に利用されており、JR東海道本線に接続して広域の移動支援にもつながる地域住民の欠かせない移動手段になっている。	
							事業全体の改善点	評価結果を交通会議で協議することで、目標達成のレベル差を地域組織単位で認識し、 利用促進策での独自取組を誘発させる。

（別添１－２）

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和3年　　月　　日

協議会名:	蒲郡市地域公共交通会議

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	第五次蒲郡市総合計画においてあげられた「子どもや高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系の確立」、「地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系の形成」を目指し、公共交通体系を一体的に改善することを目標とした地域公共交通計画を令和３年６月に策定した。当該計画の将来像等は、平成28年3月に策定した前地域公共交通網形成計画を踏襲し、交通ネットワーク網の維持・拡充を進めている。 計画の中で位置付ける取り組みとして、「鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保と交通空白地の解消」、「関係者間の連携強化による事業推進」を基本的な方針として掲げ、地域内フィーダー系統に関する計画の目標としては、「住民のニーズをふまえた公共交通ネットワーク網の維持拡充」「交通空白地解消のために導入した支線バスの適正な運行管理」等を設定している。 これら地域交通計画で定めた将来像・基本的な方針・計画の目標（施策事業）を通して、地域公共確保維持改善事業の支援を受けて、「交通空白地解消のための支線バス（フィーダー）」の運行を進める。

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

蒲郡市地域公共交通計画（旧蒲郡市地域公共交通網形成計画）の評価等結果（2020年4月～2021年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
１．鉄道を中心とした公共交通ネットワーク網の維持確保					
○鉄道 利用者数の増加（人口変動率考慮）	○名鉄西尾・蒲郡線の利用促進	鉄道事業者の有する乗降データを用いて計測	○目標未達成 ○22％減少（R1/R2年度比較）	○事業者・観光部局と連携したMaasの推進により、新たな利用者発掘、地域外からの誘客推進を図る。 ○屋外実施型利用促進イベントの継続実施	新計画策定（2021/6）での取組を記述
○路線バス 利用者数の増加（人口変動率考慮）	○蒲郡市による民間路線バスの運行支援	バス事業者の有する乗降データを用いて計測	○目標未達成 ○34％減少（R1/R2年度比較）	○コロナ対策の周知や事業者と共同した利用促進の取り組みを行う。 ○他のモードとの接続を考慮したダイヤの見直しを行う。	新計画策定（2021/6）での取組を記述
２．交通空白地の解消のための取組					
○交通空白地の削減/協議組織設置個所数３箇所以上	○地域協議組織の設置個所数の増加による新しい支線バスの運行	設置個所数	○目標達成 ○計画策定時：１箇所 ○計画終了時（2021/3）：５箇所	○新計画策定（2021/6）を通して支線バスの適正な運行管理を目指す（方針変更）。 ○地域組織と適正維持・利用促進活動を進める。	旧計画期間（2016～2021）で達成させる
○交通空白地の削減/人口カバー率の増加（計画期間で10％増）	○新しい支線バスの運行（バス停カバー率の増加）	新しいバス停設置によるバス停300m圏域の人口カバー率	○目標達成 ○計画策定時：75.5％ ○計画終了時（2021/4月時）：89.7％	同上	旧計画期間（2016～2021）で達成させる
３．持続性のある公共交通の確保					
○公共交通の維持存続/PDCAによる上記目標値の達成	○公共交通の事業管理制度（PDCA）の導入実施（交通会議での評価） ○利用促進活動の実施	交通会議を通した評価協議	○目標達成 ○毎年評価協議実施（12月/3月）	○新計画策定（2021/6）を通して新しい目標管理指標・PDCAを継続実施	旧計画期間（2016～2021）継続

（記載に当たっての留意事項）

- 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「ー」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

中部様式

令和３年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

蒲郡市地域公共交通会議

平成２５年３月１日設置

フィーダー系統　地域公共交通計画　令和３年６月策定

1.直近の二次評価の活用・対応状況

直近の二次評価結果 （令和3年3月）調査事業・計画策定	事業評価結果の反映状況 （具体的対応内容）	今後の対応方針
＜令和3年3月1日付通知＞ **〇評価できる取組** ・名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に向け、市民、観光部局と連携した活動を実施されたことが確認できました。 ・形原地区をモデルに、東部地区、西部地区で地域主導による支線バスの運行を開始したことを評価します。 ・新型コロナウイルスの影響を受けた公共交通事業者への支援、公共交通を利用した謎解きゲームの開催など、東三河地域が一体となった取組について評価します。 ・次期計画策定に向けた調査事業が計画どおり実施されたことが確認できました。 **〇期待する取組** ・引き続き名鉄西尾・蒲郡線の利用促進に期待します。また、隣接する西尾市との連携強化についてもお願いします。 ・三谷地区（R3.1～）、大塚地区（R3.4～）で運行開始を予定している支線バスの確実な事業化及び利用促進を期待します。 ・東部地区、西部地区、三谷地区、大塚地区の支線バスについては、目標値の再検討を頂くとともに、各支線バスの利用状況の分析をお願いします。 ・調査事業については、今年度の調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待します。	**〇新地域公共交通計画の策定** ・令和3年6月に蒲郡市地域公共交通計画を策定した。 ・旧交通網形成計画・新交通計画で掲載している下記のような事業を適切に遂行している。 **〇名鉄西尾・蒲郡線の活動** ・対策協議会、活性化協議会を通して２市連携して対策を協議・推進。 ・「赤い電車に乗って歩こう！ぶらりんウォーク（R3/6/27日程変更）」などの利用促進活動を継続して実施。 **〇支線バスの取組** ・支線バスの各地区の協議会を開催し、停留所別利用実績を共有し、利用促進・事業改善の検討を地域主導で行っている。当該検討を法定協議会にて確認・連携し、事業運営を進める。 **〇交通空白地対策** ・既設のコミュニティバスでカバーできていない塩津地区等には、勉強会を開催し、地域のニーズと地区協議会の設置意向を確認し、カバーエリアの拡大を進めている。 **〇バス利用促進対策** ・公共交通マップ（R3/4版）を作成・配布し、利用ＰＲを実施。乗り方教室等地道な周知活動を継続。	**■全体：市交通会議でのPDCA** 　左記の事業評価を、当該資料を用いて市交通会議で確認する。また、新交通計画で盛り込んだPDCAの仕組みを通して計画的にPDCAを行う。 **〇名鉄西尾・蒲郡線の活動** ・市民まるごと赤い電車応援団や観光部局と連携し、名鉄を活用したイベント創出などの利用促進活動を継続して実施していく。 **〇路線バスの利用改善策** ・コロナの影響が大きい路線バス対応のため、観光まちづくりビジョンで位置づけられる「観光客向け交通手段の整備」など、観光部局と協力した回遊性・周遊性拡大による利用改善策を取り組んでいく。 **〇支線バスの取組** ・地区協議会・連携協議会等で支線バス事業のモニタリングを実施し、利用促進活動や１日乗車券の導入等相互利用方策の検討を進める。 **〇交通空白地対応** ・塩津地区などを候補に、さらなるカバーエリアの拡大を進める。

■ 公共交通ネットワークイメージ

蒲郡市全体の交通網

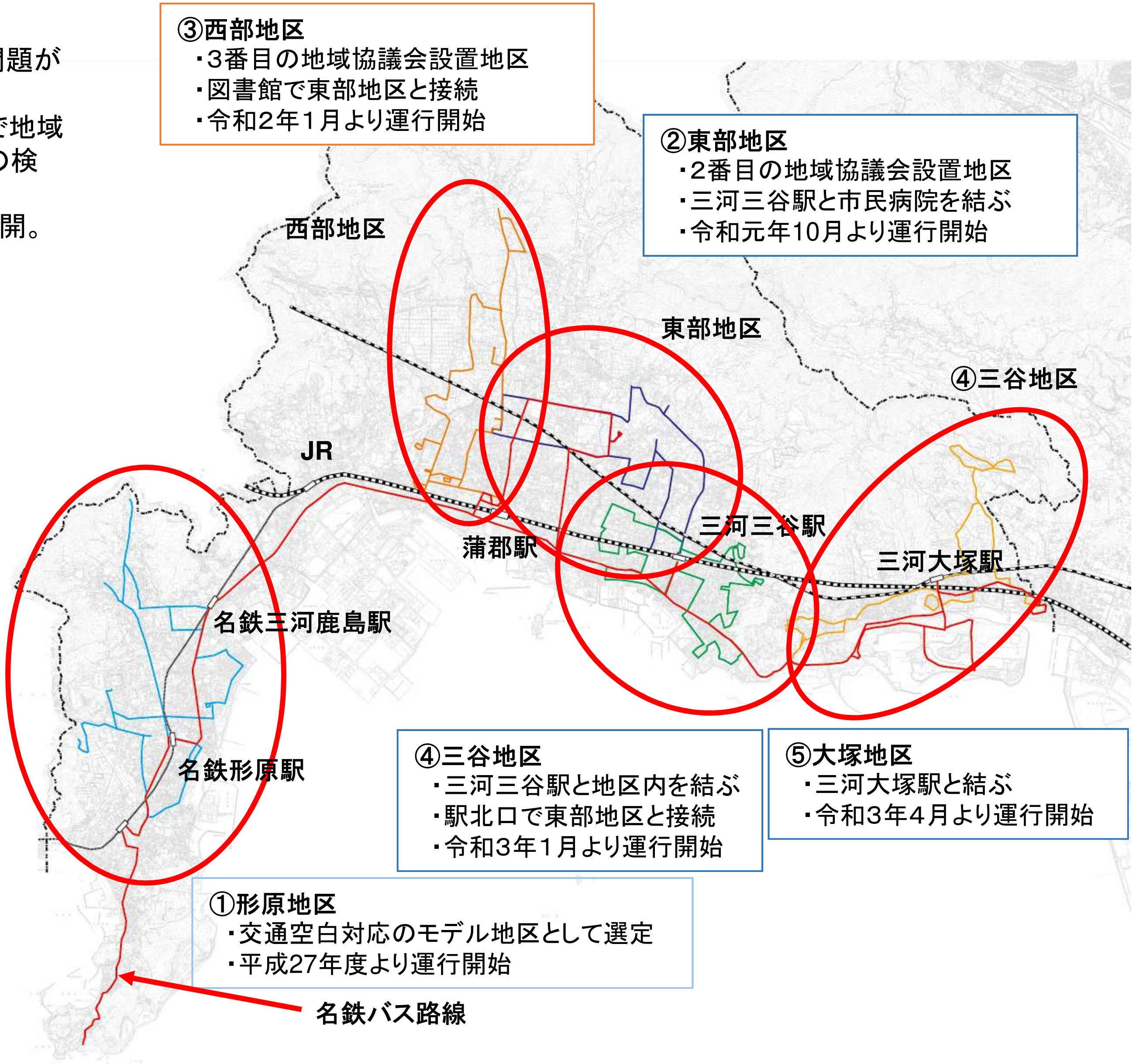
- ・平野部・臨海部に鉄道、路線バスが運行
- ・山間部を含むその他エリアで交通空白問題がある。
- ・交通空白問題地区において、地元主導で地域協議会が設置された箇所は、支線バスの検討・路線設置を行う。
- ・①形原⇒②東部⇒③西部地区の順に展開。
- ・令和3年1月：④三谷地区で運行開始。
- ・令和3年4月：⑤大塚地区で運行開始。

■　新地域公共交通計画の将来像及び期間

- ●　将来像
  - ・子供や高齢者らが安心して移動することのできる公共交通体系が構築されている。
  - ・地域で創り、守り、育てあげる持続性の高い公共交通体系が構築されている。
- ●　計画期間：令和３年度～７年度（５カ年）

■　公共交通の基本的な方針

- ●　鉄道を中心とした交通ネットワーク網の維持確保（交通空白地解消等）
- ●　関係者間の連携強化による事業推進（利用促進活動等）



3 -1.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容　（Do）

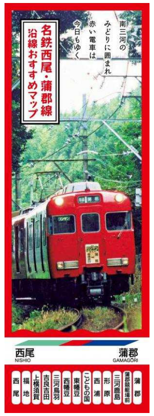
■目標を達成するために行う事業

※地区支線バス＝フィーダー補助路線（交通空白）

計画の主な目標	主な事業
交通ネットワーク網の維持確保・交通空白地解消	にしがま線（名鉄西尾線・蒲郡線）げんき戦略の推進、地域主導による地元協議組織の組成（形原・東部・西部・三谷・大塚地区）　等
関係者間の連携強化	東三河全体で、公共交通利用促進イベントを実施、支線バスの各地区協議会会長等による連携協議会および地域協議会の開催　等
持続性ある公共交通の確保	小学生等乗り方教室、バス乗車体験、広告収入の確保、オープンデータ化（GTFS-JP）対応　等

■実施してきた主な取組

名鉄西尾・蒲郡線（市民まるごと赤い電車応援団等）



1）ＰＲ資料
- 沿線おすすめマップの改定版の発行（R2/3）
- 沿線ガイドマップの改定版の発行（R3/3）

2）利用促進活動
- フリー切符を活用したスタンプラリー開催（R3/1～2）
- 第５回ぶらりんウォーク（ゾッキコラボ）開催（R3/6/27）
- 駅舎ありがとうイベント開催（R3/10/10）

路線バス

1）ＰＲ活動
- 公共交通マップの作成・配布
- バス整理券歴史謎解きゲーム開催（R3/7～9）

支線バス（新規実施）

1）支線バスの新規運行（三谷地区・大塚地区）
- 三谷地区公共交通協議会（R1/10/31設立）
  令和３年１月　定時定路線型支線バスの運行開始
- 大塚地区公共交通協議会（R2/2/25設立）
  令和３年４月　定時定路線型支線バスの運行開始

2）東部・西部地区協議会への特別感謝状（R2/11/2）
- 住民主導の事業構築の取組、地域公共交通の充実に貢献したとして受賞

3）小学校の社会科の学習（R3/10）
- 形原地区の小学校の授業にて、あじさいくるりんバスをテーマに子どもたちにまちづくりについて考えてもらう。
- 子どもたちによる自主学習、市職員・バスの運転手・協議会会長との質疑やバス乗車を体験。

4）出前講座実施（R3/10）
- 高齢者団体向けに、公共交通・コミュニティバスについてをテーマに講話および乗車体験

5）地域コミュニティバス連携協議会開催（R3/7/28）
- ５地区の協議会会長・副会長による話し合い・情報共有の場を設ける

三谷地区おおしまくるりんバス出発式（R3/1/9）

大塚地区ひめはるくるりんバス出発式（R3/4/3）

支線バス（継続実施）

●地区支線バスのGTFS-JP（オープンデータ化）

形原・東部・西部・三谷・大塚地区について
運行開始に合わせ対応

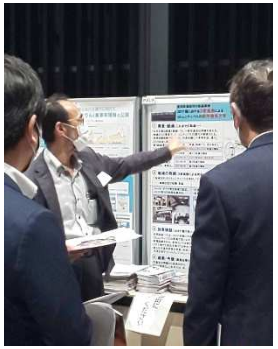
●車体・バス停への広告

●ぬりえ・写真展示

●各地区での運行協議

●公共交通マップ等による周知

●MM会議での報告（熊本）

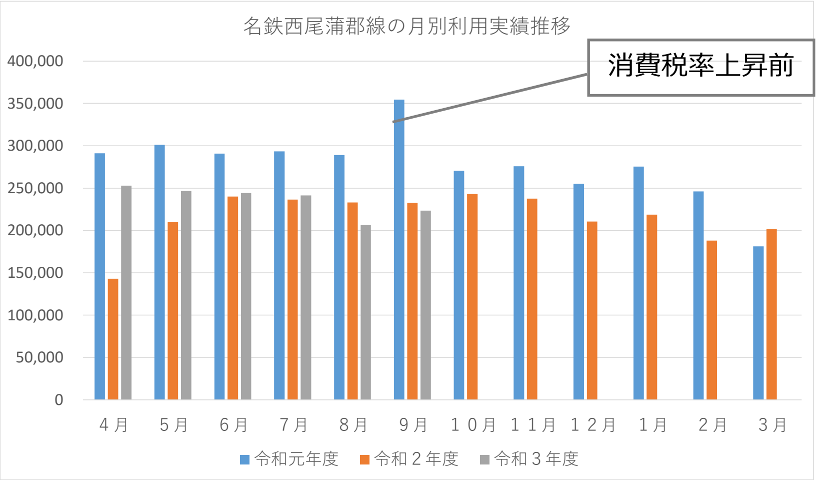


■市の交通ネットワーク全体の評価【鉄道】

○ 将来目標：2025年時点での利用者数＝155万人/年
　R元年度実績＝1,549千人　R２年度実績＝1,211千人（22%減）　**目標未達成**

○ 考察
・市民主体応援団（市民まるごと赤い電車応援団）等による利用促進活動するも減
・鉄道に接続するフィーダー系統である形原地区支線バスの利用減少の影響
⇒R元年度実績：4,836人　R２年度実績：3,568人（前年比73.8%）
・コロナによる休校や県外への不要不急の外出自粛（観光客減少）により、特に通学利用、定期外利用での利用者減少

◀応援団ロゴマーク



○ 今後の方針
・事業者・観光部局と連携したMaasの推進により、新たな利用者発掘、地域外からの誘客推進を図る。
・屋外実施型利用促進イベントの継続実施

● 名鉄西尾・蒲郡線の利用推移

		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R１年度	R２年度
西尾~蒲郡	小計（千人）	3,120	3,242	3,173	3,333	3,359	3,391	3,409	3,324	2,595
	前年との増減数	48	122	▲69	160	26	32	18	▲85	▲729
吉良吉田~蒲郡	小計（千人）	1,540	1,590	1,540	1,582	1,598	1,601	1,611	1,549	1,211
	前年との増減数	▲7	50	▲50	42	16	3	10	▲62	▲338

4 -2.計画の達成状況の評価指標とその結果　（Check）

■市の交通ネットワーク全体の評価【路線バス】

○将来目標：2025年時点での総利用者数＝16万人/年

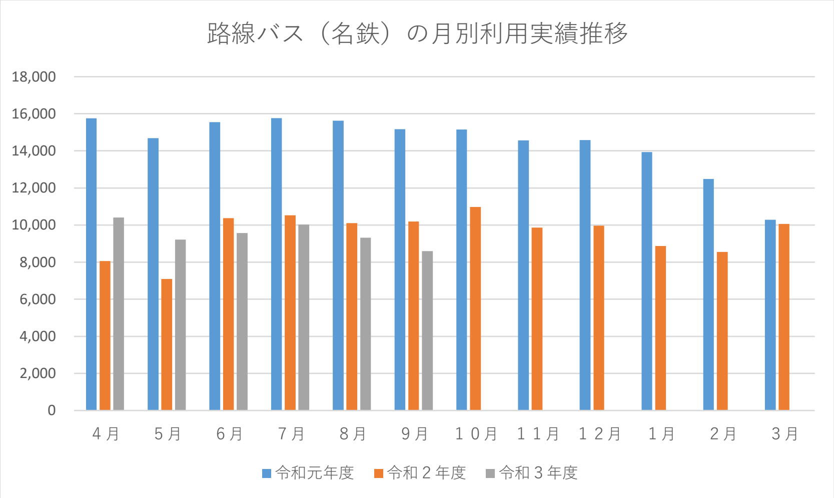
R元年度実績＝173,537人　R2年度実績＝114,609人（34%減）　**目標未達成**

○ 考察

・平成26年11月の大型複合リゾート施設無料シャトルバス運行開始に伴い、東方面のバス利用者が激減

・平成27年、29年のダイヤ改正により、利便性の向上および合理化を図るも、現行高齢利用者の減少により、利用者減は続く

・コロナによる沿線専門学校の休校（平日朝夕）、高齢者の不急な病院利用の減少（平日昼）、観光客の減少（休日）などが原因として大幅減。



○ 今後の方針

・コロナ対策の周知や事業者と共同した利用促進の取り組みを行う。

・他のモードとの接続を考慮したダイヤの見直しを行う。

● 路線バス（市補助支援路線）の利用推移

年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計	前年度比較
平成３０年度	17,383	15,859	15,695	16,822	17,138	15,345	16,059	15,144	14,697	13,752	13,339	14,805	186,038	
令和元年度	15,750	14,689	15,549	15,759	15,629	15,171	15,147	14,564	14,582	13,929	12,485	10,283	173,537	93%
令和２年度	8,051	7,090	10,367	10,530	10,104	10,187	10,978	9,859	9,972	8,865	8,551	10,055	114,609	66%

■ネットワークに接続する「フィーダー系統の評価」

年間利用者数	令和３年度（目標）	令和３年度（R2/10～R3/9実績）	達成状況
形原地区支線バス	4,800人	4,026人	未達成
東部地区支線バス	2,400人	1,557人	未達成
西部地区支線バス	1,000人	1,100人	達成
三谷地区支線バス	3,000人	1,444人	未達成
大塚地区支線バス	900人	728人	未達成

○ 考察

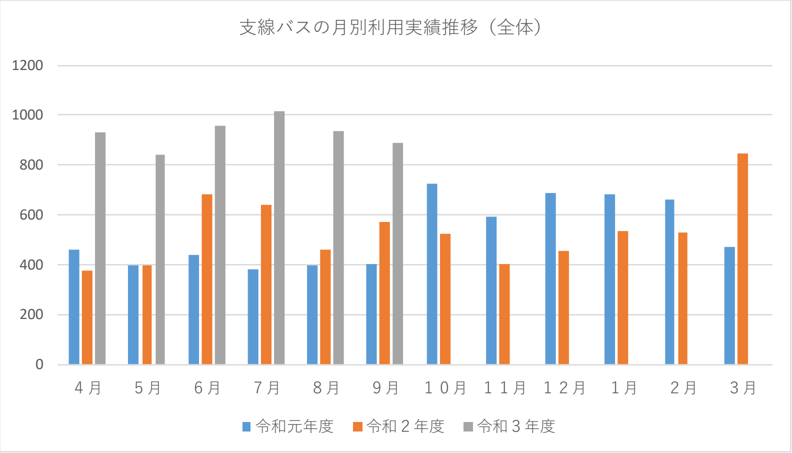
- Ｒ３年度の目標設定に対して、西部地区を除き目標を達成できていない。
- 先行して運行していた形原・東部地区は、R2～R3年度の推移としては減少する一方で、西部地区は増加している。
- R3/4～R3/9月の月別状況は、概ね対前年同月比の値を上回り、コロナ禍から抜ける兆しがある。

○ 今後の方針

- コロナ対策の実施・周知
- 複数の支線バスの相互利用を促進する取り組みの実施
- 利用の少ない停留所の見直しを検討

フィーダー系統全体の利用動向

全体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
令和元年度	462	398	437	381	396	404	726	595	689	684	662	469	6,303
令和2年度	377	399	684	638	461	571	523	404	455	534	530	847	6,423
令和3年度	929	840	956	1013	937	887	0	0	0	0	0	0	5,562



形原あじさい		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和元年度	人数	462	398	437	381	396	404	443	385	456	381	415	278	4,836
	1便当たり	5.9	5.1	5.6	4.9	4.7	5.6	5.3	4.9	5.8	5.3	5.3	3.6	5.2
令和2年度	人数	222	233	430	403	284	382	301	241	242	220	204	406	3,568
	1便当たり	2.8	3.0	5.5	5.2	3.6	4.9	3.6	3.3	2.9	3.1	2.8	5.2	3.8
令和3年度	人数	405	375	449	422	401	360	0	0	0	0	0	0	2,412
	1便当たり	5.2	4.8	5.8	5.0	5.1	4.6							5.1

東部とがみ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和元年度	人数							283	210	233	197	160	127	1,210
	1便当たり							3.1	2.5	3.0	2.5	1.9	1.5	2.4
令和2年度	人数	111	110	165	163	111	119	137	114	141	122	120	154	1,567
	1便当たり	1.3	1.3	2.0	1.9	1.3	1.4	1.5	1.5	1.7	1.6	1.5	1.8	1.6
令和3年度	人数	133	95	116	162	125	138	0	0	0	0	0	0	769
	1便当たり	1.6	1.1	1.4	1.8	1.5	1.8							1.5

西部みかんの丘		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和元年度	人数										106	87	64	257
	1便当たり										1.3	1.0	0.7	1.0
令和2年度	人数	44	56	89	72	66	70	85	49	72	77	66	128	874
	1便当たり	0.5	0.6	1.0	0.8	0.7	0.8	0.9	0.6	0.8	0.9	0.7	1.4	0.8
令和3年度	人数	97	88	99	120	109	110	0	0	0	0	0	0	623
	1便当たり	1.1	1.0	1.1	1.2	1.2	1.2							1.1

三谷おおしま		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和2年度	人数										115	140	159	414
	1便当たり										1.8	1.8	1.9	1.8
令和3年度	人数	168	151	178	177	184	172	0	0	0	0	0	0	1,030
	1便当たり	2.0	1.8	2.1	1.9	2.2	2.0							2.0

大塚ひめはる		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計/平均
令和3年度	人数	126	131	114	132	118	107	0	0	0	0	0	0	728
	1便当たり	1.5	1.4	1.3	1.3	1.3	1.2							1.3

5.自己評価から得られた課題と対応方針　（Act）

＜自己評価から得られた課題＞

①鉄道＝直近の利用者は大幅減少。利用促進の拡大、誘客推進が必要。
②路線バス＝利用者の減少傾向がとまらない。サービス維持について協議が必要。
③交通空白地対応＝新たな支線バスの拡大が進む。交通空白地区への事業説明の継続。
④フィーダー＝西部地区を除き未達。コロナ禍から抜け平常に戻る兆しあり。便当たりの利用実績比較から地区別の乖離があり、乗り継ぎ利用などを見込む利用促進対策が必要。

＜今後の取り組み＞

①鉄道の対応
- 【通年】市民まるごと赤い電車応援団等による利用促進活動を継続実施。
- 【令和４年度中】事業者・観光部局と連携したMaasの推進。

②路線バスの対応
- 【通年】事業者と協議を行い、利用者減の食い止めと現行のサービス水準の維持を目指す。
- 【令和４年度中】鉄道・支線バスとの乗り継ぎ促進事業検討。

③交通空白地対応
- 【通年】５地区でのモニタリング・PDCAの実施による適正運行。
- 【令和４年度中】勉強会を継続して開催し、カバーエリアの拡大の検討を進める。

④フィーダー系統の対応
- 【令和４年度中】複数のフィーダー系統の事業化をふまえ、相互利用を促進する施策（１日乗車券の導入、認知度を高めるＰＲイベント・乗車体験会等の実施）の検討、実施。

★令和３年６月に蒲郡市地域公共交通計画を策定。計画に基づく事業推進。